

## 【取組内容】



- 認知症の人の「まだまだ働きたい」という声をきっかけに、認知症の人や家族、市民団体や介護事業者、社会福祉協議会、行政など多様な団体で実行委員会を結成し、**認知症の人が主役となり活躍する「ゆめ伴プロジェクト」**を展開。
- 街のカフェとコラボした**「ゆめ伴カフェ」**や、認知症の人と市民が共同で綿花や野菜を栽培する**「ゆめ伴ファーム」**、コロナ禍でも**折り鶴でつながろうと15万羽を集め展示したプロジェクト**や**高校生との文通**等を実施。
- 認知症の人が主役となる活動を多様な人や団体がつながって創出し、地域の人と共に楽しむ場をデザインすることで、**「認知症になっても輝けるまち」**を目指している。

## 【評価ポイント】

- 社会から孤立し希望を失いやすい認知症の人が生きがいを感じることでできる包摂的な社会の実現に寄与。

## SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性	認知症の人への視点をポジティブなものに転換するプロジェクトは、国内外への波及効果が高い。
包摂性	認知症という脆弱な立場の人に焦点を当てた「誰一人取り残さない」インクルーシブなまちづくりを実践。
参画型	認知症当事者だけでなく、要介護高齢者や障害のある人、子ども、市民団体、企業など多様な人々を応援者として巻き込み展開。
統合性	畑活動で収穫した農作物を販売して得た売上げを、ひとり親家庭を支援する団体に寄付するなど新たな地域経済循環を生み出している。
透明性と説明責任	ホームページやSNSを活用して取組を発信しているほか、定期的に実行委員会を開催し、活動の検証・改善を行っている。

